

人生の歩みの中で私たちに誰かが、「あなたは今ここで何をしていますか」、と聞かれれば私たちは何と答えられますか？

もやもやしていた私は悶え、心身ともボロボロになりました。そのとき、いわゆる回心の恵みにあずかせていただきました。民数記 21:9「モーセは一つの青銅の蛇を作り、それを旗ざおの上に付けた。蛇が人をかんでも、その人が青銅の蛇を仰ぎ見ると生きた。」この聖書のことが語られていた時、自分は罪と言う蛇にかまれた者であり、死にかかっている者であることが分かりました。大変惨めな状況に置かれている者に旗ざおの上に付けられている青銅の蛇と、十字架の上のイエス・キリストがダブって見えました。

その後、教会の礼拝説教を通して「何をして生きるか」、に関しての答えを得ました。ヨハネの福音書 21 章の解き明かしを通して、復活されてイエス様とペテロの間の対話が聞こえてきました。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛していますか」、と三回聞かれるイエス様に対して、ペテロは答えました。「はい、主よ。私があなたを愛していることは、あなたをご存じです。」この対話の後、イエス様は言われました。『わたしの羊を飼いなさい。まことに、まことに、あなたに言います。あなたは若いときには、自分で帯をして、自分の望むところを歩きました。しかし年を取ると、あなたは両手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をして、望まないところに連れて行きます。』(ヨハネの福音書 21:17 後半 - 18) この聖書に導かれて、神学大学院に進学しました。とても光栄なお招きでした。ご自分のいのちを代価として買い取られた、その値打ちを測り知れない羊を飼うように召されたわけです。

神学大学院での学びはとても楽しいものでした。学びだけではなく海外での短期宣教の機会もあってとても有意義なものでした。1998 年に神学に入学し、その後校内の宣教団体が主催した日本の大阪での短期宣教の働きに参加しました。そこで、聞こえてくる主の御声がありました。使徒の働き 18:9 - 10「ある夜、主は幻によってパウロに言われた。『恐れないで、語り続けなさい。黙ってはいけない。わたしがあなたとともにいるので、あなたを襲って危害を加える者はいない。この町には、わたしの民がたくさんいるのだから。』」主なる神のこの語りかけによって、使徒パウロにはコリントでの 1 年半間の宣教の働きへのお招きでありましたけれども、自分にとっては日本での宣教へのお招きになりました。日本にいるイエス様の羊たちのため働く、と言う明白な召しをいただきました。

2004 年 3 月日本へ宣教師として行って、共立研究所で日本の基督教の歴史を主に学びながら家族寮での生活をしてました。そして、お車を譲っていただくことをきっかけに、市川福音キリスト教会の金ムニル先生に会いました。金先生を通して市川の当時の厳しい状況をお伺いし、市川のことを覚えて祈りました。QT のときでした。ヨハネの福音書 11:44「すると、死んでいた人が、手と足を長い布で巻かれたまま出て来た。彼の顔は布で包まれていた。イエスは彼らに言われた。『ほどいてやって、帰らせなさい。』」

それで、2004 年 10 月から市川での働きが始まりました。初めは何の肩書もなく、その後、2005 年 4 月から協力宣教師、協力宣教師をへて、2007 年からは担任教師、翌年の 2008 年 4 月から主任担任牧師として現在まで働いています。2005 年からは週報に「教会を生み出す教会」と言うスローガンを掲げ、2011 年から昨年の 2024 年 5 月まで、市川の兄弟たち、

日本同盟基督教団・千葉宣教区、中国・四国宣教区、そして、「教会を立てる会」の韓国人宣教師たち、そして、オンヌリ教会をはじめ、多くの韓国とアメリカの諸教会、兄弟たちと協力しつつ、7つの教会を生み出す管として、主なる神の御手の中で用いられてきました。

約6年前、市川福音キリスト教会の会堂建築のための多額の借金の銀行返済も終わりが近いとき、聞こえてくる主の御声がありました。ルカの福音書 4:43「しかしイエスは、彼らにこう言われた。『他の町々にも、神の国の福音を宣べ伝えなければなりません。わたしは、そのために遣わされたのですから。』」とても、分かりやすい語り掛けでした。それで、私もそのときから市川での働き以降のことを考え始めました。そして、市川で長く腰を下ろし中核的な働きをしていた役員の年配の姉妹にも、市川での働きを終え、次のところへ移ることをほのめかし始めました。

その後、市川出身の先生が働いていた館山での代務としての働き、またコロナの時期を過ごしていた時、神は次の段階へと進むのを躊躇っている自分にまた語りかけてくださいました。マルコの福音書 8:34 - 35「それから、群衆を弟子たちと一緒に呼び寄せて、彼らに言われた。『だれでもわたしに従って来なければ、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。自分のいのちを救おうと思う者はそれを失い、私と福音のためにいのちを失う者は、それを救うのです。』」

人生の歩みの中で誰かが私に、「あなたは今ここで何をしていますか」、と聞かれれば、私は次のように答えたいと思います。「この世は闇で覆われてどこへ向かえばよいか分かりません。そこで、私の足のともしび、道の光なる神のことばが聞こえてきました。私は今、ここで神のことばを聞き、それについて行きます。私は光の中を歩んでいます」と。